



「日本語のトリビア」を見つけてよう

「話すこと・聞くこと」に重点を置き、
楽しみながら日本語の見方・考え方を広げる学習

教科書三年第一単元
言葉とわたしたち
日本語を考えよう (書・読四)
調査したことを報告書にまとめよう
詩が生まれるとき 随筆
日本語は乱れているか 随筆
日本語を巡って話し合おう (話・聞三)
シンポジウムを開く
【七時間配当】

一 基本的な考え方 学習のとりえ方

三年の第一単元「言葉とわたしたち」は、七時間配当で、二つの随筆『詩が生まれるとき』と『日本語は乱れているか』を読み、調査したことを報告書にまとめ、日本語についてのシンポジウムを開くという構成である。

今回は「話すこと・聞くこと」に重点を置いて、楽しみながら日本語についての見方や考え方を深める学習を計画した(配当時間は七時間)。最終学年のスタートであるので、取り組みやすく、新しい人間関係を築く下地となる学習活動を楽しみながら行いたい。

具体的な活動は、「シンポジウムを開く」という学習材にこだわらず、広い範囲から求めた話題を共有できるように、「日本語のトリビア」と題して、求めた話題をミニ・レポートとして口頭で発表し合つものである。人気のテレビ番組のおかげでスムーズな導入にぎやかな反応が期待できよう。

「マヨネーズなどで有名な食品会社『キューピー』の会社名は『キューピー』と書くのが正しい。」「であるとか、「スポンやスカートについている『チャック』の語源は『きんちゃく(巾着)』である。」「など、役に立ちそうもないが「へえ」と言ってしまう雑学的な知識は意

広めたり深めたりする活動(第四次)
学習を振り返らせ、印象に残った活動を挙げさせる。

三 指導と評価の計画例(七時間)

第二次 (第二時・三時)	第一次 (第一時)
<p>「日本語のトリビア」大捜査</p> <p>言葉に関する使えない知識を、「日本語のトリビア」と見つけて、それを身近な話題の中から探す。指導者は、学習者が発表しようとする内容を把握しておくこと、第二次の発表で補足説明をすることができよう。</p> <p>*「おおむね満足できる」状況は、「日本語のトリビア」を見つげられる状況である。</p> <p>*発表の準備や方法が特に優れているものは、「十分満足できる」状況であると判断できよう。</p>	<p>日本語のおもしろさに気づく</p> <p>二つの随筆を聞き、感想を出し合ひ。</p> <p>この段階で学習のねらいを意識できない学習者や内容に興味や関心を示さない学習者などのために、『言葉に関する問答集・総集編』(文化庁編集)などを事前に参照して、話題を用意しておきたい。</p> <p>例 ・「間違」の「間違える」は同じか違うか。 ・正しい表記は「絵の具」か「絵具」か。 ・「家」と「屋」はどのように使い分けるか。など</p>

外と身近にあふれている。言葉のおもしろさに気づいて、ちよつと調べて発表し合つのに好適である。

ここでは、教科書教材も聞く教材と位置つけて、言葉に関する知識を扱いながら「話すこと・聞くこと」の学習を展開する。

この学習で身につけさせたい力

広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のもの見方や考え方を広めたり、深めたりする。

二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点
話題を求める活動(第二次)

「日本語のトリビア」を見つげられたか。
話したり聞いたりする活動(第三次)

「日本語のトリビア」を発表し合えたか。
広めたり深めたりする活動(第四次)

知ったことや考えたことをまとめられたか。
「努力を要する」状況にある学習者への対応
話題を求める活動(第一次)

補足説明や具体例の提示を行う。

話したり聞いたりする活動(第二次)
ポスターなどの形で文字化して発表させてみる。

<p>第三次 (第四時・五時)</p>	<p>第二次 (第二時・三時)</p>
<p>「日本語のトリビュ」発表会 会場や発表内容にふさわしい話し方で、「日本語のトリビュ」を発表したり、発表会にふさわしい態度で発表を聞いたりする。</p> <p>*「おおむね満足できる」「状況は」「日本語のトリビュ」を発表し合える状況である。</p> <p>*話し方や聞き方が特に優れている者は「十分満足できる」「状況である」と判断できる。</p> <p>*「努力を要する」「状況にある学習者に対しては指導者が内容を確認したり整理したりして取り組ませる。」</p> <p>例 ・それは〜ということかな。 ・内容が複雑だ。もう一度説明してもらおう。 ・は〜と〜ということだね。など</p>	<p>*「努力を要する」「状況にある学習者に対しては課題やヒントを提示して取り組ませる。」</p> <p>例 ・ワープロで海外の国名や都市名を交換してみては。 ・友達が「ジッパー」「ファスナー」「チャック」のどれを使うかアンケートしてみても結果をまとめてみては。 ・「サンカクケイ」と「サンカクケイ」のどちらが辞書の見出しの表記なのか調べてみては。など</p>

ができる。こうすることで、学習者も学習のねらいをとりやすく考えると考える。

第二のポイントは、学習のまとめ方である。今回の学習では、第一次で「気づく」ねらいの把握(1)、第二次で「話題を求める」、第三次の発表会で「話したり聞いたりする」、そして、第四次で学習を通して知ったことや考えたことをまとめるという構成をとった。つまり、口頭でのレポートをもってまとめるとはではなく、学習の振り返りをまとめとしているのである。

これは、話したり聞いたりする活動を通して、自身自身を豊かに変容させるのが学習のねらいだからである。同様に、学習のねらいが曖昧になることを避けるために、「書くこと」の学習にシフトしやすいたりポートを「ミニ・レポート」にしたり、「言語事項」の学習にシフトしやすい話題を「トリビュ」使えない知識」と位置づけたりしている。

一方、第三次の発表会で、口頭での発表ができない学習者に対して、ポスターなどの形で文字化して発表させることを認めているのも、ねらいを焦点化させるためである。

最後のまとめは口頭でも簡単な文でもよいが、いずれにしても学習者の内面の変容がきちんととりえらわれるよう

<p>第四次 (第六時・七時)</p>
<p>知識や考えをまとめる 「この学習を通して気づいたことや考えたこと、新しく得た知識などをノートにまとめる。」</p> <p>*「おおむね満足できる」「状況は、知ったことや考えたことなどをまとめられる状況である。」</p> <p>*学習を通してもの見方や考え方が特に広がったり深まったりした者は「十分満足できる」「状況である」と判断できる。</p> <p>*「努力を要する」「状況にある学習者に対しては学習内容を振り返らせて取り組ませる。」</p>

四 この学習のポイントとなること

第一のポイントは、身につけさせたい力を焦点化してすべての学習材を「話すこと・聞くこと」の題材と位置づけたことである。

教科書を分析してみると、前段の「読むこと」と「書くこと」の学習を踏まえて、後段の「話すこと・聞くこと」につながる構成である。したがって、「話すこと・聞くこと」に重点を置いた展開が自然である。

また、前段の二つの随筆はいずれも音声や文字化したものである。聞くことの題材として提示すれば、全体を「話すこと・聞くこと」の学習としてまとめることが工夫することが大切である。文章や発表の巧拙に感わされずに、もの見方や考え方の広がりや深まりをとらえて評価したい。

「この単元を終える」と「問題意識から意見へ」という書くことの学習が続いているので、自分たちの見つけた「日本語のトリビュ」を、自分の意見へまとめあげていく題材として利用することも可能であろう。

日本語のおもしろさや問題点は、さまざまなメディアで論じられている。そのようななかで、中学生なりに日本語のおもしろさや問題点に気づき始めている学習者も少なくないことだろう。「このような学習者にとって、どこから思っていることを話したり聞いたりすることは、自分の発想や認識をダイナミックに刺激する活動となるであろう。」

また、日本語に関する話題に接した経験をもたない学習者にとっては、「日本語のトリビュ」を探すこと自体が自分の発想や認識を広げたり、深めたりすることにつながるし、楽しく発表し合うことで、大きな刺激を受けられることが期待される。